

防災意識評価と意識指標値の特性について

近畿大学工学部 正会員 高井 広行

1. はじめに

芸予地震は東広島市においても多大な被害をもたらし、市民に大きな衝撃を与えたことはいままでもない。そのような災害の発生前後、地域によって住民の防災に対する意識も微妙に変化している。この意識指標は防災環境を評価する指標として有効である。そこで、住民の防災に対する意識およびその指標値の実態と特性について考察したのでここに報告する。

2. 意識調査の概要と実態

(1) 意識調査の概要 本調査は芸予地震前後の意識を知るために、平成10年と13年11月初旬に実施した。対象地域は住宅を中心とした4地区である。さらに、過去に行った調査、広島市消防局が実施した意識調査、神戸市で行われた意識調査結果等と比較・考察する。

(2) 防災意識の実態

1) 地震時発生時の行動 地震を感じて最初に行ったことについて図1に示す。多かったのは「様子を見ていた」で42%（広島調査33%）、「何もしなかった（できなかった）」が22%（同37%）、「戸外にでた」が13%（同8%）、「テーブルの下などに身を寄せた」11%（同4%）となっている。「様子を見ていた」と「何もしなかった」の両者の合計63%（同70%）と、多くの人たちが何もできない状況であった。

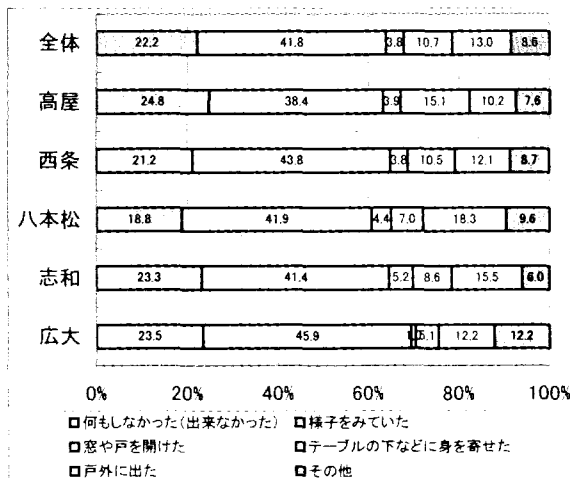


図1 地震を感じてどうしたか

2) 地震情報の入手方法 地震情報の入手の仕方の結果について図2に示す。最も多かったのは「テレビ・ラジオをつけた」で80%前後と、ほとんどの人が

がマスメディアから情報をえようとした。また、「インターネット」からと答えた割合も10%前後で、とくに、広大生たちの23%が高い。広島調査においても91%もの人々が「テレビ・ラジオ」と答えている。

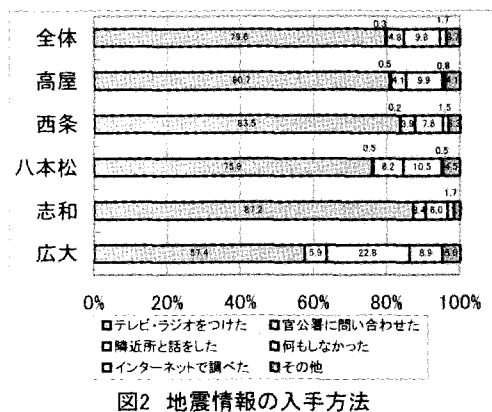


図2 地震情報の入手方法

3) 地震直後に困った事柄 地震発生直後、困った事柄について複数回答してもらった結果を図3に示す。多い事柄は全地区で「電話の不通」75%、「携帯電話の不通」54%と電話関係に集中している。広大生に関しては90%が「携帯電話の不通」をあげており、若者の携帯電話の依存性が伺われる。その他には「道路の渋滞」14%、「山陽道の不通」8%となっている。

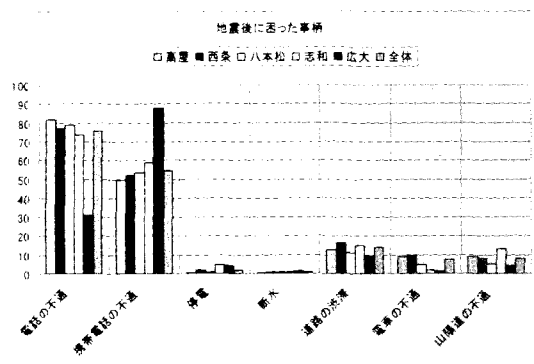


図3 地震直後に困った事柄

3. 防災意識の変化

芸予地震の発生前後の市民意識の変化についてみる。発生前の調査は平成10年11月に実施したものである。

(1) 震災の危険不安意識の変化

震災の危険不安意識について10年度の調査結果を図4に13年度を図5に示す。「感じる（非常に感じる+やや感じる）」と答えた割合は10年度では全体で50%、震災後では72%と20%以上増加していることになる。

地区別では全地区でこの意識が高くなっている。とくに、八本松地区では地震前 50%が地震後では 81%と増加している。志和地区においても同様の結果である。

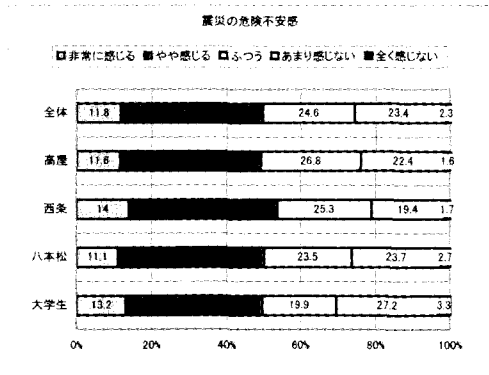


図 4 震災の危険不安意識 (平成 10 年度調査)

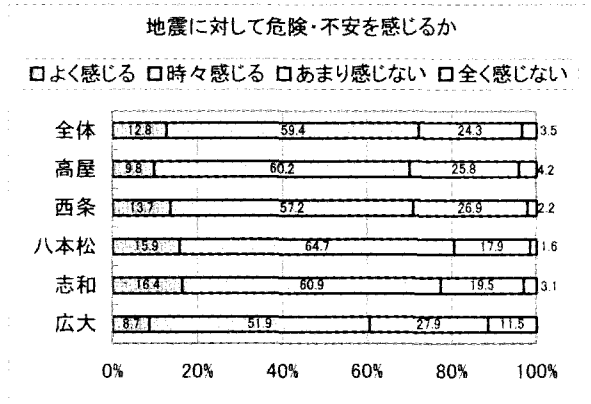


図 5 震災の危険不安意識 (平成 13 年度調査)

(2) 総合防災環境意識の変化

総合的な防災環境について図 6 に示す。「よい (非常に+ややよい)」の割合は全体で地震前 35%、後 36%と変化していない。地区別に見ると西条地区では約 10% 近く増加、高屋地区では 6%減少、とくに、八本松地区が地震前で 36%が地震後では 20%減少している。これは被害程度によって意識が変化したものと思われる。

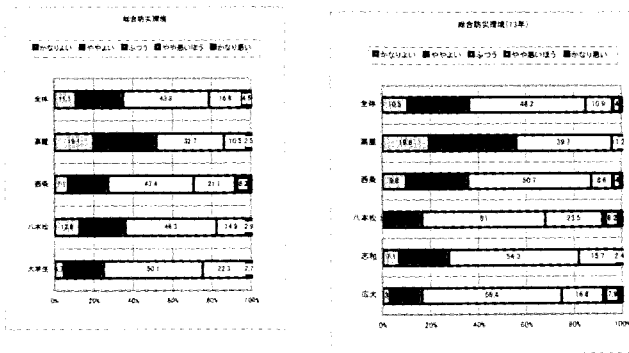


図 6 総合防災環境意識の変化

(3) 今後推進すべき活動の要望の相違

今後推進すべき活動について広島市と神戸市調査の結果を比較する。広島市の結果はかなり神戸市の結果と異なっており、その割合も実際に大災害を受けた神戸市の指摘と違っていることがわかる。災害時に必要な情報についても微妙な差異がみられる。

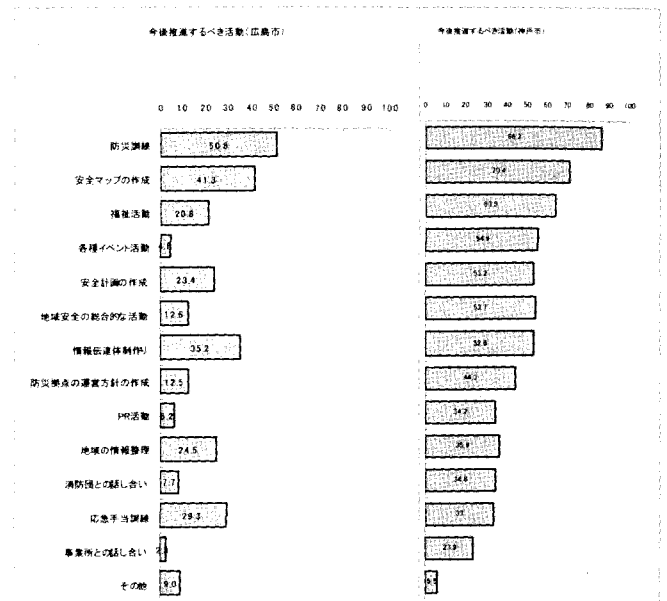


図 7 今後推進すべき活動の相違

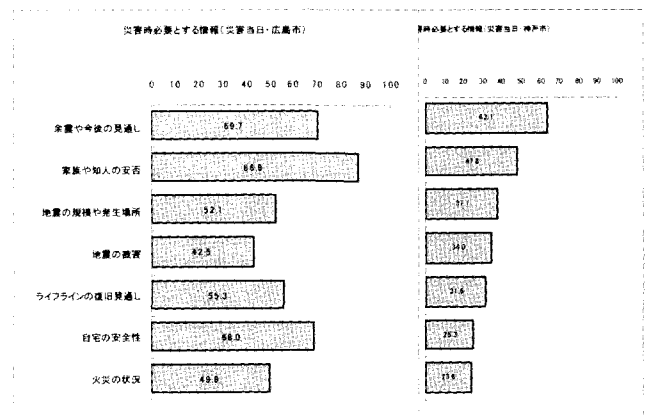


図 8 災害時に必要とする情報の相違

4. おわりに

住民の地震に対しては 80%以上のほとんどの人々が「恐怖」を感じている。地震直後の状況は「様子を見ていた」が約 40%、「何もできなかった」22%となっており、半数以上がいずれも行動を起こすことができていない。地震情報の入手方法では「テレビ・ラジオ」が 80%前後と圧倒的に多かったが若者の間ではインターネットから得たとする割合も高い。地震後に困った事柄については電話の不通が 80%以上と多く、ついで携帯電話の不通が多い。地震前後の意識の変化については被害の大小の地区によって、比較的明確に影響が見られている。とくに、八本松地区の変化は著しい。このように、地震による意識の変化は被害に敏感に反応するものがみられる。最後に、各種のデータを提供いただいた東広島市役所の関係者およびアンケートの実施に協力いただいた市民の皆様へ本紙をお借りし感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 東広島市総務部総務課、芸予地震被害データ、2001 年 6 月
- 2) 広島市消防局、平成 13 年芸予地震調査結果